

日赤の医療支援は、世界が舞台。 去年は放射線技術指導のため、 アフガニスタンへ。

名古屋第二赤十字病院では世界各国の赤十字と協力し、さまざまな国際救援活動に参加しています。これまでもカンボジア、ベトナム、クルド、スーダン難民の救援などに世界各地へ職員を派遣しております。昨年は、7月16日から10月18日までの3カ月間駒井一洋放射線技術係長(2度目の国際救援派遣)が、アフガニスタンに国際赤十字委員会(ICRC)が開設した戦傷外科病院でレントゲン撮影の技術指導を行って来ました。

「救援の手を待つ世界のために、 日本から人材を。」

●駒井一洋放射線技術係長

アフガニスタンでは20年以上内戦が続いています。現在は北部と西部を最前線に、武装組織タリバーン(イスラム神学校学生)と反タリバーン3派の戦闘が行われ、南部はタリバーンの勢力下にあります。私が派遣された戦傷外科病院があるのは、南部の町カンダハール。病院には前線から戦傷者や地雷の被害者が運びこまれ、日本の病院にはない光景がたびたび見受けられました。

この病院へは世界各国から医師や看護婦はすでに派遣されていましたが、レントゲン技師の派遣は初。その緊張の中、3カ月間でできる限りの指導をしました。ただアフガニスタンの人は誇り高い民族ですから、突然やってきた外国人がいきなり口で教えても心を開くはずがありません。そこで、まず自分の技術を見てもらおうと率先して動くうちに、次第に受け入れられていきました。

活動中に痛感したのは、国際貢献の意味。と言うのも、現地でNGO

(非政府機関)やユニセフなどのスタッフは大国からだけではなく、中小さまざまな国から集まっていました。それを見て、もっと日本人も世界に出て行かなければと思っただけです。

もちろん、それは行く人の努力だけではなく、残った人たちの支援がなければ成り立ちません。つまり国際救援には病院ぐるみの取り組みが必要ということです。もともと赤字は、戦争で傷ついた人々を敵味方なく救うことから始まったのです。その理念の下、当院では「人道」と「博愛」の精神に基づき、国際救援活動に積極的に参加しています。

また国際救援と言うと、語学力が重視されがちですが、民族性も習慣も全く違う慣れない土地ですから実際、現地で大切なのはストレスをうまく処理できるかどうかです。もうひとつ重要なのが、他のスタッフたちとのふれあいです。良い人間関係を作ることが、支援活動をスムーズに進める第一歩だと思います。



戦傷外科病院放射線科現地スタッフと共に(中央が駒井技師)

当院の海外医療支援派遣状況 ()内は当時の職名

氏名	派遣期間	派遣先●派遣目的
伊藤はつ子(看護係長)	S55年11月～3月	タイ●第7次カンボジア難民医療救援
太田 明(内科医師)	S56年4月～7月	マレーシア●第4次ベトナム難民医療救援
原田康年(診療放射線技師)	S56年4月～7月	マレーシア●第4次ベトナム難民医療救援
駒井一洋(診療放射線技師)	S59年6月～9月	マレーシア●第5次ベトナム難民医療救援
酒井登茂子(看護係長)	H元年5月～11月	マレーシア●ベトナム難民医療救援
佐橋 剛(小児科医師)	H3年4月～7月	イラン●クルド難民医療救援
赤塚あさ子(看護係長)	H3年6月～11月	ケニア●スーダン難民医療救援
大脇睦彦(企画係長)	H3年6月～7月	ソビエト連邦●チェルノブイリ原発事故被害者救援事業
	H4年7月～10月	ロシア共和国連邦●ロシア連邦人道援助
大橋久美(看護婦)	H6年2月～8月	ケニア●スーダン難民医療救援
●海外医療救援活動視察		
富永健二(院長)	S57年3月	タイ●カンボジア難民医療救援活動視察
栗山康介(院長)	H9年2月～3月	ケニア●スーダン難民医療救援活動視察

イギリスからやって来た、 学生ボランティア。



ヘレン・リンマー
イギリス・マンチェスター出身。
リーズ大学で地理学を専攻予定。
18歳。



シャーロット・ナイ
イギリス・ブライトン出身。
ウェールズ大学で経済学を専攻予定。
19歳。

「ヘレン」病院に派遣されると聞き、最初はビックリ。ただ、日本の歴史や文化について興味があったので、日本に行けるのがうれしかったんです。病院では社会復帰しようと、一生けんめいリハビリを頑張っている患者さんの姿に心を打たれました。この活動を通して、自分の中に独立心が養われたと思います。

「シャーロット」外国で働くということ、それに医学生ではないので、どう患者さんと接したらいいか不安でした。もちろん今ではすっかり患者さんと打ち解けて話せるようになりました。小児科では点滴を嫌がる子供たちの気が少しでも晴れたらと、点滴袋にキャラクターの絵を描いてるんです。病院で働くうちに、いつも笑顔で誰とでもコミュニケーションできるようになりました。

なお当院では、今後も定期的にGAPからのボランティア受け入れを行っていきます。

内分 泌 内 科 を
ご 存 知 だ っ せ ぬ か ?

内 泌 外 部 部 門 中 環 境 情 報 況
定 保 難 感 じ
伝 達 物 質 せ 代 表
ホ ル ン 異 起 蘭 蘭 蘭
存 発 糖 尿 甲 腺 当 内 泌 内 科
科 訪 外 8 割 糖 尿 残 月 250
0 人 ほ だ
2 割 甲 腺 副 腎 皮 質 下 垂
体 副 甲 腺 副 腎 皮 質 下 垂
ン 異 方
性 化 内 泌 大 特 徴 慢
わ 発 多
現 当 糖 尿 幅 広 年 齢 層 広
10 代 ~ 90 代 女 性 甲



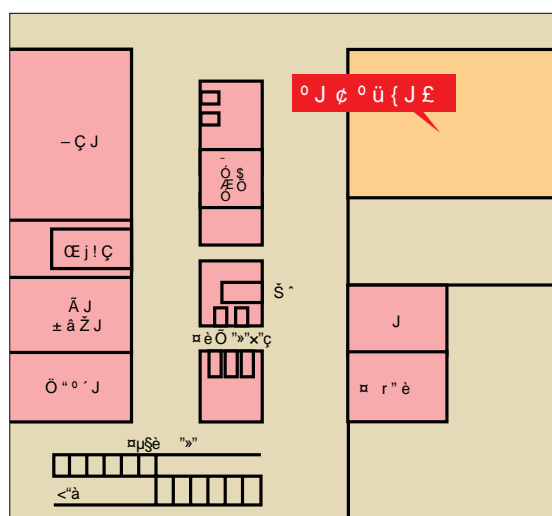
内分 泌 内 科 の カ ン フ ェ レ ン ス 風 景

腺 初 年 間 270 名 位
ひ び 甲 腺 じ
疑 々 疑 々 細 胞 外 方 検
査 検 査 方 年 々 増 え
慢 性 特 徴 長
法 運 動 法 飲 み 菜 食 事
身 大 切 己 管

参 加 型 の 治 療 を め ざ し て
私 ち 内 泌 内 科 方 針
婦 薬 剤 師 検 査 技 師 栄 養 士 看 護 士
ム ひ チ
一 ワ ー カ ー チ ー ム 組 み
ぞ 性 活 指 導
中 タ ッ プ 特
わ 聞 上 言 葉 説 明
ど 薬 飲 経 験
ど 活 習 慣 持
方 針 組 み 立
協 力
慢 性 協 力
ど 加 え 長 期
飲 渡 比 較 中 多 安 定
途 中 油 断 重 引 起 原 因 養 動



● 板 津 武 晴 第 二 内 科 部 長 (内 分 泌 内 科)



第 一 病 棟 3 階

体 重 血 圧 測 量
全 体 チ ェ ッ ク
サ ン 見
ど ぞ ぞ ぞ
ど ぞ ぞ ぞ

C O L U M N

糖 尿 病 と 上 手 に つ き 合 っ て い く た め に

糖 尿 病 は、間 違 っ て 腎 臓 病 と 思 わ れ が ち で す が、現 代 生 活 の ス ト レ ス が そ の 原 因 と も 考 え ら れ て い ま す。当 院 で は 神 経 障 害、網 膜 症、腎 臓 障 害 な ど の 合 併 症 を 引 き 起 こ さ な い た め の 二 次 予 防 は も ち ろ ん、発 症 を 防 ぐ 一 次 予 防 に も 早 く か ら 取 り 組 ん で い ま す。具 体 的 に は「糖 尿 病 教 室」や「糖 尿 病 の つ ど い」な ど を 開 催 し、糖 尿 病 に 関 す る 最 新 情 報 を 提 供。患 者 さ ん や そ の ご 家 族 に 正 し い 知 識 を 持 っ て い た だ き、そ れ を 知 恵 と し て 活 用 し て い た だ く こ と が、一 番 の 予 防 だ り 治 療 で あ る と 考 え て い ま す。



「クリスマスコンサート」を開催しました。

昨年の12月15日に、毎年恒例の「クリスマスコンサート」を開催しました。このコンサートは患者さんやご家族の方々から好評をいただいております。今回も会場の第一病棟1階正面玄関ホールには、300名近い方々がお集まりくださいました。ゲストは、中国琵琶の「善祥さん、ピア・徐」ソプラノの矢野留美さん、そして歌手の黄小伶さん。司会は花井美紀さんです。会場の皆さんは、珍しい



中国琵琶の調べやすばらしい歌声、そして楽しいおしゃべりに大満足の様子。一曲終わるごとに大きな拍手、また明るい笑い声がホールに響きました。最後は、皆さんにクリスマスプレゼントが手渡され、あっという間に予定の1時間40分が過ぎてしまいました。



「小児科クリスマス会」を開催しました。



「小児科クリスマス会」が行われたのは、12月の17日。中日ドラゴンズの立浪内野手、中村捕手そして山田投手をゲストに迎え開催されました。第一部は小児科病棟で行われたおやつ時間。職員が飾り付けをしたプレイルームに集まり、クリスマスソングが流れるなか、栄養課で用意したケーキやくだものをみんなで楽しくいただきました。そして第二部では場所を10階カンファレンスホールに移し、いよいよ3選手の登場。サンタクロース姿の栗山院長とともに、子どもたちへのプレゼントからスタートです。一人ひとり名前を呼ばれ、選手から手渡しされたプレゼントにみんな大喜び。会場に来られなかった子どもたちには、病室まで選手が訪れてくれました。その他にも3選手のトークショー、ボランティアの皆さんや医師、看護婦をはじめ当院の職員によるショータイムが続き、子どもたちと3選手そして職員にとって楽しいクリスマスとなりました。

編集後記

「八事日赤ニュース」第2号をお届けします。今年最初の本号が、少しでも皆さんのお役に立つことを心から願っております。今後も変わりゆく医療や当院に関する身近な話題、また有意義な情報を盛り込んで発行してまいります。本誌へのご意見、ご要望がありましたらどうぞ下記のところへお寄せください。お待ちしております。名古屋第二赤十字病院 企画課

〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町2番地の9
TEL 052-832-1121 内線2233

虫めがね



介護保険制度の創設

【介護サービスの内容】

在宅サービス

- 訪問介護 ●訪問入浴 ●訪問看護
- 訪問・通所リハビリ ●かかりつけ医の医学管理等
- デイサービス ●短期入所サービス
- 痴呆対応共同生活介護
- 有料老人ホーム等における介護
- 福祉用具の貸与・購入費の支給
- 住宅改修費の支給 ●居宅介護支援

施設サービス

- 特別養護老人ホームへの入所
- 老人保健施設への入所
- 療養型病床群、老人性痴呆疾患療養病棟その他の介護体制が整った施設への入院

特徴といわれています。

保険者は市町村。被保険者およびサービスの受給者は40歳以上の方です。介護保険料は、制度導入時の平成12年で毎月1人平均2500円の見込み。65歳以上の方（第一号被保険者）は年金から天引き、または市町村が徴収します。40歳～64歳の方（第二号被保険者）は医療保険者が徴収します。介護サービスの利用者負担は、費用の1割。在宅、施設の両面のサービスが受けられ、利用者が内容を自由に選べるのが特徴といわれています。

平成12年度から介護保険制度が導入されます。高齢化社会が進むなか、高齢者への介護を社会全体で支えることを目的に、介護保険制度が新たに設定されました。導入は平成12年度4月からです。介護保険では、老人福祉と老人医療に分かれている高齢者への現行制度を改め、保険料と公費によって利用しやすい、公平で効率の良い介護サービスが提供されます。

平成12年度から介護保険制度が導入されます。

キドニークラブ

名古屋第二赤十字病院

腎疾患児親の会

「病氣のお子さんを抱える親の会です。最初は幹事自身も大変でした。でも一人の力ではできないけれど、みんなで力を合わせれば乗り越えていけるんだ、と今は実感しています」と語るのは、発起人の一人である渡部千世子さん。ご自身もネフローゼ症候群の子どもの持つ親として、同じ様な悩みを持つ親御さんのお役に立ちたいという思いが、会を作るきっかけであったそうです。「この会には二つの大きな目的があり、一つは病気について正しい知識を提供すること、もう一つは精神的に辛い時は互いに支え合うこと。悩みや不安を持つ

キドニークラブは、平成5年に発足した腎臓疾患を持つ親の会。慢性腎炎やネフローゼなどをわずらうお子さんと透析、移植を受けたお子さんをお持ちの親御さんなど、現在約60名の会員で運営されています。「発病間もないお子さんや、現在闘病中のご家族のために少しでもお役に立てれば」と、年2～3回のペースで勉強会や相談会、親の会の開催、会報「キドニークラブ」の発行などの活動を展開しています。

「病氣のお子さんを抱える親の会です。最初は幹事自身も大変でした。でも一人の力ではできないけれど、みんなで力を合わせれば乗り越えていけるんだ、と今は実感しています」と語るのは、発起人の一人である渡部千世子さん。ご自身もネフローゼ症候群の子どもの持つ親として、同じ様な悩みを持つ親御さんのお役に立ちたいという思いが、会を作るきっかけであったそうです。「この会には二つの大きな目的があり、一つは病気について正しい知識を提供すること、もう一つは精神的に辛い時は互いに支え合うこと。悩みや不安を持つ



キドニークラブへのお問い合わせは、入会のお申し込みは、
〒46610834
名古屋市中区和
広路町梅園25-1
渡部千世子まで

●キドニークラブ勉強会

4月下旬「腎不全」
7月「腎臓の働きと尿検査の意味」
(腎疾患入門として毎年開催)

ている方は、ぜひ気軽にご参加ください。」当院の小児科も、積極的に会に参加し情報提供に協力しています。診察の場ではなかなかできないふれあいを通じて、子どもたちと親御さんのより良い闘病生活を応援していきたいと考えています。



外来診療表

平成10年1月1日現在

診療科目	室	月					金
		月	火	水	木		
産婦人科	午前	7	小林	山室	長谷川	長谷川	小林
		8	加藤	鈴木	加藤	山室	鈴木
		12	風戸	堀	塚原	堀	塚原
	午後	7		小林 ^妊			山室 ^妊
		8		風戸 ^妊			田口 ^妊
		12		加藤・塚原 ^妊			鈴木・堀 ^妊
泌尿器科	午前	1	小幡	小林	小林	彦坂	小幡
		2	彦坂	古橋	横井	古橋	横井
外科	午前	5	秋田	長谷川	小木曾	秋田	長谷川
		3	雨宮	千田	上原	宮崎	高橋
精神心療科	午前	2	南 ^予	室谷 ^初	北上 ^予	室谷 ^予	室谷 ^予
		3		南 ^予	外ノ池 ^予	外ノ池 ^予	北上 ^予
		5	北上 ^初		交替制 ^初	南 ^初	外ノ池 ^初
	午後	1	井上 ^{予心}	大槻 ^{予心}		井上 ^{予心}	大槻 ^{予心}
		6	大槻 ^{予心}	井上 ^{予心}	小久保 ^{予心}	大槻 ^{予心}	井上 ^{予心}
皮膚科	午前	1・2	浜	徳田	浜	浜	浜
		3・5	鈴木	鈴木	徳田	徳田	鈴木
		7・8	徳田		鈴木	鈴木	
	午後	1・2	徳田 ^{予ア}		浜 ^{予ア}		鈴木 ^{予ア}
整形外科	午前	1	宮坂	山本	内堀	山本	山本
		2	大森	高津	大森	井上	井上
		3	井上	廣瀬	高津	宮坂	高津・宮坂
		5	鈴木	石田	石田	鈴木	前田
リハビリテーション科	午前			前田		廣瀬	
放射線科	午前		三村			三村	
形成外科	午前	3	並木		並木	並木	
移植外科	午前		打田	富永	交替制	打田	幅
			幅			上村	片山
午後			打田 ^予		富永 ^予	打田 ^予	
					(第1・3)		
脳神経外科	午前	6	岡田	浅井		新谷 ^予	浅井 ^予
		7	三井	津川	木村	岡田	関
神経内科	午前	1	勝野	若山	若山	森	勝野
		2	渡辺	森	堀部	渡辺	堀部
		3	白水	安藤	安藤	白水	柳 ^予
循環器内科	午前	7	大島・山内	山田(健)	平山	七里	平山
		8	前田	坪井	前田	坪井	山田(功)
		10	竹下	伊藤	三輪田		伊藤
午後	10		ペースメーカー 外来 ^予		前田 ^{予療}		
心臓血管外科	午前	12	井尾	田嶋	岩瀬	井尾	末永
呼吸器内科	午前	3	鈴木	服部	鈴木	小笠原	小笠原
		5	佐光	山田	中村	服部・前田	前田
呼吸器外科	午前	2		向山		向山	小鹿
		2			小鹿		

診療科目	室	月					金	
		月	火	水	木			
耳鼻咽喉科	午前	1	間宮	金	間宮	中澤	間宮	
		2	野村	本堂	小島	本堂	本堂	
		3	金	野村	有馬	野村	金	
		4	中澤	中澤	金	小島	小島	
午後	2	小島 ^{予学}				間宮 ^{予学}		
	3	間宮 ^{予学}				金 ^{予学}		
	4	中澤 ^{予学}				野村 ^{予学}		
歯科口腔外科	午前		竹内	竹内	竹内	竹内		
			後藤	後藤	後藤	小関	後藤	
小児科	午前	1	今橋 ^{予心}	安藤 ^神	安藤 ^{予道}	浅井	今橋 ^{予心}	
		2	大西 ^{10:30}			松岡 ^{10:30}	第1・3週	
		6	神田	上村	石井	神田 ^ア	五島	
		7	石井 ^{9:00}	岸 ^{9:00}	志水 ^{9:00}	佐橋 ^{9:00}	大西 ^{9:00}	
	午後	1	今橋 ^{予心}			浅井 ^{予精}	今橋 ^{予心}	
		2	永井 ^{予精}		神田・大西 ^ア	永井 ^{予精}	永井・永田 ^母	
		6	上村 ^{予胃}	石井 ^血	交替 ^{予乳}	岩佐 ^循	側島 ^未	
		7	志水 ^{予胃}	大西 ^血	交替 ^{予接}	矢守 ^循	岸・浅井 ^未	
8				上村 ^{予内}				
				志水 ^{予内}				
				松岡 ^{予内}				
小児外科	午前	8	飯尾・上岡	上岡・飯尾	赤塚・上岡	飯尾・上岡	赤塚・上岡	
内科	血液	午前	3	平林	後藤	弓削 ^{10:00}	平林	後藤
		午後	3	平林 ^予				
	消化器	午前	10	加藤(哲)	平松	加藤(秀)	水野	加藤(哲)
		12	水野	安藤	北川	服部	飯島	
		13	荻野	林	飯島	荻野	平松	
	内分泌	午前	7	板津	三浦	板津	三浦	板津
		8	交替制	内藤	山本	有吉	木下	
	腎臓	午前	16	吉田	小山	武田	吉田	武田・小山
		午後	16	両角 ^予				
	一般	午前	2	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制
眼科	午前	5	稲垣	武内	稲垣	稲垣	武内	
		6	渡辺	平井	平井	武内	平井	
ペインクリニック	午後			津田 ^予				

- 予** 予約
- 初** 初診
- 心** 心理
- 療** 心療内科
- ア** アレルギー
- 非** 非常勤
- 神** 神経
- 学** 学童アレルギー
- 遺** 遺伝相談
- 精** 精神
- 母** 母子心療1・2・3週
- 妊** 妊婦健診
- 腎** 腎臓
- 血** 血液
- 乳** 乳児健診2・4週
- 内** 内分分泌1・3週
- 接** 予防接種1・3週
- 循** 循環器
- 未** 未熟児1・2・3週

外来のご案内

●診療受付時間
初診：午前8時～午前11時まで
再診(平日)：午前8時～午前11時30分まで

●整形外科のみ
初診：午前8時～午前10時30分まで
再診：午前8時～午前11時まで

●診療開始時間 午前8時45分

●休診日 土曜・日曜・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

※救急については、休診日や診療時間帯にかかわらず救命救急センター(五病棟1階)にて診療しています。

●移植外科(小児) 金曜/第2・4週(CAPD)(内線2520)
水曜午後/第1・3週

●小児科 午後受付 12時30分～午後2時まで(再診)

●ペインクリニック 午後受付 12時30分～

●呼吸器外科 午後受付 12時30分～午後2時まで

初診(初めて受診される方)

「診察申込書」に必要事項をご記入の上、保険証を添えて新患受付へお出し下さい。なお、紹介状をお持ちの方は、一緒にお出し下さい。

再診(2回目以降受診の方)

直接受診科受付へお越しいただき、再来受付機にて手続きを済ませて下さい。ただし診察を受ける科が初めての場合は、各受診科受付で手続きをして下さい。また、前回救急外来に受診された方はお申し出下さい。

※予約診療の方、及び予約検査の方は予約票にしたがって受診して下さい。

【予約(再診)診療科】

精神心療科・整形外科・移植外科・神経内科・
循環器内科・心臓血管外科・呼吸器内科・
歯科口腔外科・小児腎臓・血液内科・消化器内科・
内分泌内科・腎臓内科・ペインクリニック・
産婦人科(妊婦健診、火・金午後)

※各診察日担当医師につきましては、学会等により代診、休診とさせていただきますのでご了承下さい。

